

「農の生け花」誕生の由来

～農家のための生け花～

「農の生け花」創始者 翠邦会主宰 横井 友詩枝

「農村には、野菜や果物やその他色々な物が転がっているではないか。それらでは生け花にはならないのか!」

夫は生前農家のための土壌学を研究（細部調査を推進）しておりました。その彼が、突然申したタッタこれだけの言葉が、今日の「農の生け花」誕生のキッカケとなったのでございます。

夫は、日頃から農家の皆様には敬愛の念を深くしておりました事から察しましても、その心は「農家の皆様のための生け花」を私が研究してお役に立ちなさいという事と理解できましたので、早速その実行に取り掛かりました。

しかし、いざ現実の問題となりますと、私にとりましては全くとりつく島もない有り様で、その勉強は、ただコツコツと農村・農家訪問の交流を度重ねる方法以外にはなかったのでございます。

幸い昭和49年4月から、日本農業新聞くらし面に、私の農作物を素材とし民具や農具を配した生け花の写真をお載せ頂くようになり、今では日本全国の農村で、農の新しい文化として重要視されますと共に、世界に誇る農家

ならではの生け花として根付いて参りました。農村の活性化にお役に立つようになりました事と信じております。

私どもの暮らしから次第に季節感が失われつつある中で、大自然が与える作物の姿に接する「農の生け花」の創作に取り組まれる農の皆様が、素直な、そして豊かな心、潤いのある暮らしに導かれる事を願うものでございます。



横井先生の作品



題 春爛漫
器 素焼き坪、炭つぼ
素材 桜（浜中洋子提供）、ねぎぼうず（高鳥清子提供）